

基本10枚差分合計184枚
あつちとこつちとそつちの
ろーるちゃんのHなCG集

ろーる「ふんっ...」
おっきおっきしゅわっ...
いけないろっくんだね♡

「ああんっ♡二人とも
そんなに乳首
なめないでk...」
「ああんっ♡二人とも
そんなに乳首
なめないでk...」
「ああんっ♡二人とも
そんなに乳首
なめないでk...」

ろーるぱれいとりぴる



うーる「うっくん、とろんちゃんがお兄さんのお手伝いにいったから
代わりにこの子を連れてきたよ♡」

「うーる「ポカーン。」」

うーる「この子もうーるちゃんまで
いっしょに連れてって」



どうしてこのちゃんが3人も？

くっ…静まれ…僕のバスター兵器…

射程が+5に…くっくっ！

早くこの子が…なんでもかんでもはたいては…

苦いぞ…

どうしてこの子が…一緒に
楽しんであげようか？



「……えっ……えっ……あの……ぞね……」

「……悪いよ、初めて会った子にそんな事をさせるなんて……」

「……静まれ……僕のバスター兵器……があっ！射程が二気に+10に……」

「我ハ……黒ロックニ……変身……シンウダ……」

「……電……が……届かな……く……ぶ……あ……お……お……お……」



「うーる「わかりました……。うつくさんのをこんなに大きく

腫らせたままじゃかわいそうなので私も手伝います！」

んん「ほ、本当によいのかな？」

「うーる「はい、私の「ジョー」をくっつけてあげてはくさず
治してあげます！」



うおおおん、それ以上……いけないうおおん！

うおおおん、それはまるで人間射精発電所だ。

うおおおん、それ以上……いけないうおおん！

うおおおん、それ以上……いけないうおおん！

うおおおん、それ以上……いけないうおおん！

うおおおん、それ以上……いけないうおおん！

うおおおん、それ以上……いけないうおおん！



「……うん、うん……」

「……うん、うん……」

「……うん、うん……」

「……うん、うん……」

「……うん、うん……」

「……うん、うん……」

「……うん、うん……」

「……うん、うん……」



えっへん(おっぱい)種々

ゼリーのちみちならならんことばあひが
僕のバスター兵器を傷つておろせ「種」
包んで天使のちみちに贈りてくれた



エロい(もっ)っのん人達えいぢまほのちみち

は...恥ずかしくて頭がどうんてどうん

しゅん(もっ)っのん(もっ)っのん(もっ)っのん

んんん

おっぱい

おっぱい

おっぱい

おっぱい



「うーる」うっく、私達も脱いじやうね、ほちっ♡」

「うーる」うっく

「うーる」うっく

「うーる」

「あめん♡二人とも

そんな乳首

なめないでよ。(

んんん

うーる「ふひっ、3人のうーるちゃんに見つめられて

おっきおっきしげくて、

いけなこっくんはあはは(♡)

おっ

おっ

おっ

ふっふ「二人の顔にもぶっかけ

おすぞわけ！」

ロロ「さっさとかけかけて♡」

ろーる「さっさと気持ちよかったんだね

おちんちんがまだびくびくして

元気にはおめがっさっているお。かーわいー♡」



ろーる「その皮の部分好きっ? ろっくんがティグアウト帰りにほ

いつもチーズがついてさずささいおいしいんだけど

今度舐めるときは残しといてあげるね♡」

ろーる「おはっ♡ JOYONONON...」
「おはっ... ストロミみたいだ...!」

「ろーる「うん、皮好き♡... チーズ...」



うっく「3人の熱いうーるちで散々トロトロに

溶かされた濃厚クリーミーソース、
口の中に思いっきり出っ……!!」

DND「うーるちんぶっつっつっ!!? 熱っっっ!!」

んんんんん

んんん





「うーる」ううかな...んんん...
む、難しい...

「うーる」ううかな...んんん...
む、難しい...

うーる「大きくなーれ、
大きくなーれ♡」

うーる「大きくなーれ、
大きくなーれ♡」

うう
うう

うう
うう

「んーん、素足のほうがいいのかも？」

「ろーる、唾液を塗布するぞ」

「滑りがよくなるといい♡」

「んーん、唾液を塗布するぞ」

「んーん、繊維はきもいから好きじゃないかも？」





「わわっ！」

「おおっ！」

「ひゃっ！」

「すずすずして気持ちいいっ！」

びゅん
びゅん

びゅん♡



「うーる」まだまだおちんちんは
目がぼんぼんなんだね。」

「うっへ」ほほほほ…今の…良かった…。」

「うーる」まだまだおちんちんは
元気いっぱいな男の子だね。」

「うーる」「うーる」本番はこれかうたあつー…。」

うん
うん

うん
うん



「♡ちんちん放してあげなさい♡」

「うーん「はっはっ...」やっやっ...」

「...」

「...」

Pina

Ara

Ara

Pina

Chi-ri-ri-ri

Chi-ri-ri-ri

うっく「はああ、丁度いい感じだわー」

ろーるちゃんのおまんこ最高だ！」

うーる「うっく、あんなに可愛い女の子が私を刺すなんて、最高だ！」





「♡♡♡おっぱいおっぱい♡♡♡」

おっぱい♡♡♡

おっぱい♡♡♡

おっぱい♡♡♡

「精液ソースをトッピングだー！」

「♡♡♡おっぱいおっぱい♡♡♡」

「♡うる「みんなとっ…毎日できき……えっちしたいね」



「♡うる「はあ…はあ…はあ…んんんん…えっち…」
楽しいね」

ろっく」当たり前じゃないか！毎日してま

したらないんか！おめー」

はあはあはあ」
うーる「あんっ♡あっ、んんっ♡





は...は...は...

ん...ん...

ん...ん...

ん...ん...

食べるちゃんが満足のまじりのキンポ 食うについて放すものか!

ぱんぱん

ぱんぱん



「…んんん」

「あーあーあー」

「んんんんん」

「あーっ♡♡♡♡♡一緒に…」



「はあああん♥」

「あ...ん...」

あま

あま

あ ♡

あ ♡

「あ...ん...ん...」

あま

あ...ん...ん... ♡





うる「え、ぞ、ぞうかな？」

まっく「デスクアウト中のマク」の「あんなに可愛い女の子、誰か抱いてあげたい」

あ

ひん

あんなに可愛い

マク

あんなに可愛い

ドローる「じゃあディグアウト中の寂しい時に

私がバイノーラルサポートで

耳舐めしてあげよっか♡」

ほん

ほん

ほん

ほん

「んっく」何ぞれ興奮するのよ





「...おれんがさうせんか...おれんがさうせんか...おれんがさうせんか...」

おれんがさうせんか...

おれんがさうせんか...

おれんがさうせんか...

「おれんがさうせんか...おれんがさうせんか...おれんがさうせんか...」



あーっ

あ

うっく「ルーちゃんのあんなおっぱい
また食べたいなあ」

ぴんぴん

ルー「あーっ！食べようっ」

口移しで一緒に食べようっ！

あーっ
あーっ

あーっ
あーっ

ほぁぁぁぁぁ

D-「うっく」

シャイニングレーザー
私に発射してえ♡

たっ

うっく「出すまっ」

うーるちゃんに思いっきり

発射するまっ！

IP

IP

!!





うつく「シガアイニイングウウウウウ!
しーガアアアアアアアアツツツ!」

んおッ

Dうーる「ほああん!!」
いーっくっくくくくッ
♡
♡
♡

んおッ
♡
♡

んおッ
♡
♡



あーる「あっ、はい……ああん♡」

あーる「あっ、はい……ああん♡」

あーる

あーる

あーる

あーる

うっへん(もっちゃんやちんちゃんの柔肌は次元の違うやっつな)

(おめ細やかナゾで驚いた。)

Pinon~

んあぁぁ

Pinon~

Pinon~

Pinon~

Pinon~

(全身にベビーパウダーを塗ったような繊細な玉の肌を

傷つけてしまわないように優しく感じる事になった。)

「もうーる「んんっ、もう少し激しく動いても」

「いい…です…♡」

「Pino」

「んん」

「んっ、んんっ、あっああっ、あっあっはっんっ♡」

「Pino」

「んん」

「んん」

「んん」





「♡なんっはっ！おーん」の「お」が「お」でっ♡

はっ！

「おーん」の「お」が「お」でっ♡

おーん

はっ！

「ふっふっふっ……きもちよかったですね……もうーるちゃん」

「ん……ん」

「もうーる」あの……もうー度お願いします……♡
「きもちよかったです……かも……♡」

「ちゅーん」

「んんん」



うっく「スロットイン！スロットアウト！

スロットイン！スロットアウト！」

Pinon

んんん

んんん

んんん

んんん

「♡すませいませいっす！いいきます！いいきます！♡」



「うっく(ぶおおっ!)
4人同時プレイ!
入り乱れての
Dro-「ひゃあん♡」
あっ
あっ

あっ♡
んっ♡
んっ♡
あっ♡

あっ

あっ
あっ
あっ
あっ
あっ
あっ

んっ♡
んっ♡
んっ♡

うっ「んむっ、れっれっ♡」

「あーん」Eメールを送る、君のおかばでございませぬーんおれいが
実現できたよーん本当にありがたうーん

「あーん」Eメールを送る、君のおかばでございませぬーんおれいが



Eメール

「あーん」Eメールを送る、君のおかばでございませぬーんおれいが

私も最初はみんな

えっちなびっくりに

したけどごめんさんの

苦しもうなめちんちゃんさんを

「Eメールを送る、君のおかばでございませぬーんおれいが」

ははははは

Mニッ
Mニッ

IP
IP
IP
IP
IP
IP





「ふあっ！あはああああん♡」

んああん

「そんな優しい君にきつー！発っ！おんぱっ！」

きゅー♡
きゅー♡

んんん



うっく「はあはあ...も...限界...」

うーさ「ふにゅんうん」

今日せうくん

いっほいだなあ

どうーる

「お疲れ様

最後は皆で

一緒にお風呂

入ろっか♡」

ん...ん...

ん...ん...

ん...ん...

「♡ん...ん...」

ろっく(うひょー!はっきりわかる!ここは天国!天国に

辿り着いた!かわいい天女さん達が密着状態で

ぶにぶにむにむにすべすべして全身をこを取っても

きもちええっっっ!)

Dろーる「ろーる風呂

気持ちいい?ろっく

ほわ〜ん

Eろーる「こんな...密着で...えっちなま...」



くっくっ

ほわん

おっぱい

ろーる
「おっぱい
ろっくの
持等席に
一番楽しい」

Dろーる「まだろーるちゃんでもHしてみたいね♡」

ろーる「まだどこかにろーるちゃんいるかも
しれないから私が探してきてあげるよ♡」



ろっく

「あはは、いくらなんでもろーるちゃんが
そんなにどこにでもいる訳がないよ。
3人のろーるちゃんどっとうしてHできただけでも
奇跡的で最高の体験だったよ。」

ろーる「わかんないよー！」

海しかないようにみえて

世界は広いんだからね。きんた

ろーるちゃんがいたりして♡」



Dろーる 「私はいると思ってた」
Eろーる 「くすっ、私も♡」

ろっく「じ、じゃあ、ろーるちゃんお願いできるかな？」



ろーる 「うんっ、ろーるにまかせて！」